

# ハイウォーターに挑む



**KAYAK**  
-カヤック-

**GoPro**

高画質小型アクションカメラ。防水性能にも優れる。

**パドル**

水面を漕ぐ道具。カヤックの場合は両端に水かきがある。

**カヤック**

機動性に優れた船体。激流を乗りこなすことができる。

5月の日差しが山々に降り積もった雪を溶かす。雪どけ水が利根川に流れ込み、白波を立てて激流となる。パドラーが心を踊らすリバーシーズンが「みなかみに到来！」

5月24日から25日にかけて「ゴーパーロウォーターゲームズミナカミ2025」が開催されました。このイベントは、みなかみ町の魅力である利根川源流の環境を最大限に活かし、利根川の激流や赤谷湖を舞台に、県内外子どもから大人まで多くの方々がパドルスポーツを楽しむイベントです。

**利根川特設コース**

ホワイトウォーター（激流）部門では、道の駅水紀行館周辺の利根川沿いに特設コースが設置されました。このコースは、護岸の傾斜からカヤックが滑り降りて入水するスタートポイントをはじめ、流れが激しいところにあえてブイを設置した見どころ満載の特設コースです。順位やタイムを競わずに、この特設コースを楽しむ「ファンライド」では、参加者が流れの巻き返しているポイントで波乗りを披露しました。

**カヤック**

カヤック種目では、3〜4人で同時にスタートし、順位を競う「クロス」と1人ずつスタートし、タイムを競う「タイムトライアル」が行われました。

迫力あるカヤックの入水やカヤック同士の接触、転覆からすぐに起き上がる「ロール」など、力強さとリカバリー技術が随所に見られるレースとなりました。



前に体重をかけ発進



斜面を滑り降りる



豪快に着水



巻き返しの水流に乗りサーフィン

水流のイメージ



正確なラインどりでブイに接近

# 利根川源流の



## GoPro

撮影シーンに合わせて道具や体に取り付けることができる。

## パドル

SUPの場合は一端に水かきがある。

## インフレーターSUP

空気で膨らむSUP。ハードボードSUPに比べ、安定感があるのが特徴。

## SUP

- サップ -

浅瀬を抜け再び激流へ



狭い浅瀬で混戦



慎重にブイを通過



全身の体重移動でバランスをキープ



SUP種目でも複数人で順位を競う「クロス」と1人ずつタイムを競う「タイムトライアル」が行われました。

SUPとは「スタンド・アップ・パドルボード」の略で、基本的に立って水面を進みます。流れが緩やかな水面では、初心者でも安定して進むことができますが、激流の中で立つて水面を進むには、バランスを保つ体幹と安全なルートを選んで進む経験値が必要となります。

そのため、トップ選手でもコースアウトや落水してしまう場面がありました。難しいコース設定の中でも、選手たちはスキルを十分に活かしてゴールを目指し、激流を乗りこえました。

## SUP

## DOG SPORTS - ドッグスポーツ -



競技の合間に国際大会などで活躍するパフォーマーたちによるドッグショーが行われました。

人が多彩な投げ方で放ったフリスビーを犬がアクロバティックな動きでキャッチするディスクドッグでは、犬と人の息の合った連携プレーが披露され、会場を沸かせました。

## ドッグショー

## SUP MARATHON

- サップマラソン -

# 爽やかな風とともに、 新緑を通り抜ける。



### ハードボードSUP

硬い素材で作られたSUP。インフレーターSUPに比べ、スピードが出やすいのが特徴。

## 赤谷湖特設コース

フラットウォーター（静水）部門では9km、3km、1km、500mの4つのコースが設定されました。9kmコースでは、深谷ゾーンが組み込まれ、選手たちは新緑の駒形渓を颯爽と漕ぎ進みました。

初めて大会に出場する方やキッズ向けのショートコースもあり、エキスパートからビギナー、キッズまで、誰もが楽しめるコースづくりがされました。

### 新緑の深谷コース（上）

猿ヶ京水管橋からのバンジージャンプで知られる駒形渓。湖面からの絶景とSUPを同時に楽しめる特別コース。

## SUPマラソン

SUPマラソンでは、全身を大きく使って長距離を進み、最高の笑顔でゴールする選手たちの姿が見られました。

また、SUPに愛犬を乗せてレースする「ドッグSUP」や3人1組になってSUPに乗る「チームトリオ」など、バラエティ豊かな種目が用意され、参加者はそれぞれのスタイルでイベントを楽しみました。

## テクニカルレース

テクニカルレースは、長距離を漕ぐマラソンに対し、パドリング・ターン・バランスキープなどの操作技術を取り入れた短距離種目です。

強風の中でのスタートダッシュと、SUPマラソンを終えた疲労感から、スタートと同時にバランスを崩し、落水してしまう選手もいましたが、最後まで諦めずにゴールした選手たちへ温かい拍手が送られました。



## TECHNICAL - テクニカル -

愛犬を乗せて漕ぎ進む



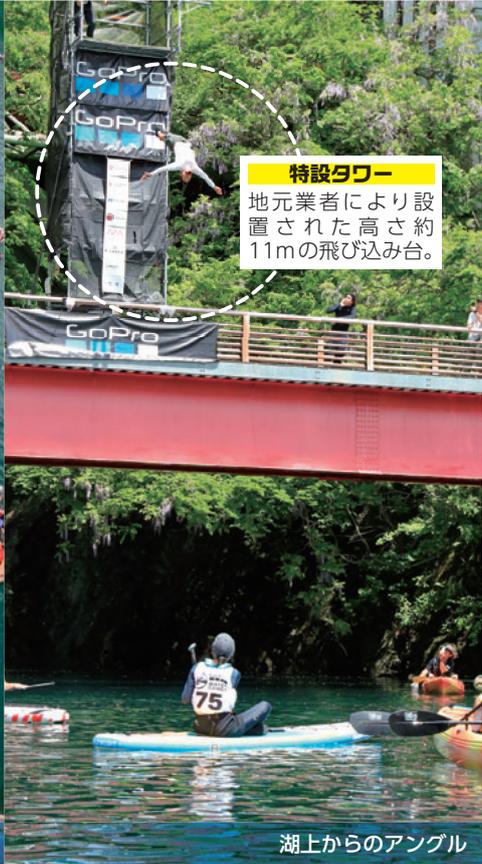


## EXHIBITION -エキシビション-

イベントの動画等が  
公式Instagramから  
ご覧いただけます。



特設タワーからのアングル



### 特設タワー

地元業者により設置された高さ約11mの飛び込み台。

湖上からのアングル



カヤックの滝下り

イベント初日と2日目の両日で行われたエキシビションでは、地元アウトドアガイドや競技参加選手、そして世界水泳2023ハイダイビング日本代表の荒田恭兵選手が圧巻のパフォーマンスを披露しました。初日のエキシビションは、稲荷滝（阿能川）が舞台となりました。一つ目のエキシビション「カヤックの滝下り」では、ホワイトウォーター部門のカヤック選手が、滝の上から流れに乗り、滝壺に豪快な着水を決めました。二つ目のエキシビション「クリフダイブ」では、地元アウトドアガイドと荒田選手が、高さ約20mの「フリフダイブ」を成功させ、会場は盛大な盛り上がりを見せました。

2日目のエキシビションでは、赤谷湖遊歩道の橋に特設タワーが設置され、地元アウトドアガイドと荒田選手による「タワーダイブ」が行われました。荒田選手は、美しい空中姿勢に捻りと回転を加えた芸術的飛び込みを成功させ、湖上と遊歩道からは大歓声が上がりました。

## エキシビション



## FREE STYLE SUP -フリースタイルサップ-

リフト

ジャンプ

フリースタイルSUPとは、SUPのトリック（技）を競う種目です。参加者は講師による指導と練習会の後、様々なトリックの完成度やスタイルを競うコンテストに参加しました。コンテスト本番では、参加者がボード上でステップやジャンプ、バランスを取りながらボードの前部分を浮かすリフトなど、様々なトリックを披露し、会場大いに盛り上がりました。

## フリースタイルSUP

## KYOUHEI ARATA -荒田恭兵選手-

今回、新たにハイダイビング(クリフダイビング)競技のパフォーマンスをさせていただきました。自然が舞台となるスポーツとして仲間入りできたことがとても光栄です。滝とタワーという日ごとに異なるステージで自分が今できる最大限のパフォーマンスを見てもらえたこと、大変ありがたく思います。イベント開催に尽力してくださった方々に感謝いたします。

